

---

# 脳内中毒

前田 洋祐

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

脳内中毒

### 【Nコード】

N6086B

### 【作者名】

前田 洋祐

### 【あらすじ】

これは僕の17年の苦しみを書いた物です！イジメ、転校、親の離婚、引きこもり。今はなんとか薬を飲みながら生きています！

## 第一話「泥棒」(前書き)

僕は小説を書いたことは無いです。

だから意味が分かりにくい、かもしれせん。

でも、僕なんかより苦しんでいる、子供は居るんです。

せめて少しでも子供の気持ちを分かってあげてください。

家族だから話さないで分かる、なんてことはありえないんです。  
超能力じゃ無いんだから。

## 第一話「泥棒」

上を見上げると四つの角がある、一番見慣れた景色、それがこの四つの角……僕の部屋だ

もう長いこと家族や親戚以外と会話をしていない。

まああんまり外に出ないから、当たり前なんだけど。

急に話を変えるが、僕は今、ある病気を抱えている。

パニック症候群……まあ僕の症状はまだ軽い方だが、他には不眠症、  
などだ。

今から始まる物語は僕が、こうなるまでの話だ。

……

オギャーオギャー

純白の壁に囲まれ、僕は生まれた。

話は一気に飛ぶが、幼稚園の頃かな、とある夜に、父親がリビングで、何かを探っているのを見た。

次の日の朝、姉が母に財布のお金が無くなってると言っていた。

母は父にお金が無くなった事を話すと、父は僕を睨み付けて

「ちょっと洋祐！こっちで正座しなさい」

まだ小さい僕は意味も分からずに父の前に正座した。

すると父は僕にビンタした。

お金を盗んだのは僕だと言っただ

僕はその時に、盗んでないのに、ビンタされるなら、盗んでビンタされた方がいいと思った。

それから盗み癖がついてしまった。

思った通り、盗んでも、あの時と怒られかたは同じだった。

父は僕を泥棒と言ったが、盗み癖が付いたのは、貴方の嘘のせいですよ。

盗み癖は17の今ものこっている。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6086b/>

---

脳内中毒

2011年1月16日08時29分発行